

VI 文化財の保護

平成28年度のねらい（平成28年度佐賀県教育施策実施計画より）

ふるさとの文化財は、今もなお地域の人々の心のよりどころとなるものです。しかしながら、価値観が多様化した現代にあっては、ややもするとその認識が薄れ、後世に引き継がれなくなってしまうおそれがあります。

このため、地域に伝えられてきた文化財について、そのすばらしさを再発見・再認識し、価値ある文化財を後世に伝えていく必要があることから、埋蔵文化財をはじめ、各種文化財の調査を行い、重要なものについては保存・整備し、活用していきます。

平成28年度における主な取組結果（自己評価）

主な取組① 文化財の調査・保存

<取組内容> 県内文化財の調査と適切な保存（文化財課）

○ 平成28年度における具体的取組内容

- 文化財保護については、開発担当部局との連携が重要ですが、文化財の重要性とその保護の仕組みについての理解を促進するため、開発担当部局職員を含む県庁の全職員を対象としたeラーニングを制作し、公開しました。そして、重要性と保護の仕組みを理解し実践する上でより効果があがるよう、年度当初や予算編成時期などに受講を促しました。
- 吉野ヶ里遺跡の発掘調査では、平成24年度からこれまでの調査成果を報告し、総括する報告書を作成していますが、平成28年度は弥生時代の墓地に関する成果をまとめた調査報告書を作成し、平成27年度から行っていた権力者が埋葬された墳丘墓以外の墓地の報告を終了しました。

○ 成果、課題・問題点

- 開発内容が具体化する前に、開発担当部局から、文化財保護との調整を申し出る事例が増え、文化財保護についての職員の意識が向上しました。
- 吉野ヶ里遺跡の発掘調査では、弥生時代の墓地に関する情報を、報告書の作成と配布により全国に発信することができ、吉野ヶ里遺跡に対する理解を醸成しました。
- 一方で、今後、吉野ヶ里遺跡の重要な調査成果の一つである墳丘墓の報告書や、新しい調査成果を踏まえた弥生時代の遺跡の変遷とそれに基づく社会変化の解明、九州北部地域や全国からみた吉野ヶ里遺跡の位置づけといった弥生時代の歴史的評価等をまとめた総括報告書を作成する必要があります。
- 発掘調査に伴う出土品については、かねてから収蔵施設の確保が懸案となっています。

<参考> 課題・問題点に対する平成29年度の工夫

- 吉野ヶ里遺跡の発掘調査では、墳丘墓に関する報告書を作成するとともに、調査指導委員会の指導・助言を得ながら、弥生時代の歴史的評価を明らかにする総括報告書の作成に向けた整理作業を行います。
- 出土品等の展示、貸出及び保存活用により、文化財の保護・公開に取り組みます。また、出土品の収蔵施設については、関係機関とも協議し、施設の確保について検討を行います。

主な取組② 文化財の整備・継承

<取組内容> 指定文化財の整備と後世への継承（文化財課）

○ 平成28年度における具体的取組内容

- 国及び県文化財指定等に向けた調査及び関係機関との調整等を行い、文化財の保存継承に取り組みました。
- 有田町が実施する「有田異人館」の保存修理や鹿島市が実施する「鹿島城大手門」の保存修理などの事業に技術的・財政的支援を行いました。
- 熊本地震により被災した「旧筑後川橋梁」や「多久聖廟」の災害復旧事業、「川打家住宅」の美装

化事業などに技術的・財政的支援を行いました。

○ 成果、課題・問題点

- ・ 国・県指定等の文化財として新たに8件が答申を受け、ユネスコ無形文化遺産として1件が登録され、貴重な伝統文化の継承に寄与しました。
- ・ 「有田異人館」の保存修理及び同敷地内の土蔵の整備が終了し、文化財としての価値の明示と適切な保存や情報発信など今後の活用に係る拠点が完成しました。
- ・ 「多久聖廟」や「川打家住宅」の復旧が完了し、文化財としての適切な保存に加え、来場者の安全性を確保することができました。
- ・ 県民自らが故郷の歴史や文化の素晴らしさを再発見・再認識し、地域の文化を発展させるためには、価値ある歴史的な文化財を後世に伝えるとともに、そのための調査研究を行い、積極的に公開・活用していく必要があります。
- ・ 少子高齢化の急速な進展による次世代の文化の担い手不足の懸念から、伝統文化の継承が難しくなっており、その継承や後継者育成に資する事業を支援する必要があります。

《参考》 課題・問題点に対する平成29年度の工夫

- ・ 引き続き、劣化・毀損が進んでいる貴重な文化財について、早急に修理・保存対策を講じます。主なものとしては、神埼市が実施する「伊東玄朴旧宅」の保存修理事業への支援や、上峰町が実施する「八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林」の保存環境の向上を図る事業への支援などがあります。
- ・ 風俗慣習や民俗芸能など地域の文化を再認識し、その継承や後継者育成のために、文化財の指定を受けた民俗芸能の用具新調事業への支援など必要な施策を講じます。

※ 新たに答申・登録された文化財

種 別	名 称
国指定	史跡「東名遺跡」
県指定	重要文化財「旧唐津銀行本店」、「桜馬場遺跡出土遺物（平成19年度調査分）」 重要無形民俗文化財「綾部八幡神社の旗上げ神事・旗下ろし神事」
国登録	登録有形文化財「旧百崎家住宅主屋」、「中野家住宅主屋・水槽・上の取水口・下の取水口・門柱・石垣」、「大隈重信記念館」、「大谷川隧道」
世界無形文化遺産登録	「山・鉾・屋台行事」（唐津くんちの曳山行事）

＜取組内容＞ 三重津海軍所跡の発掘調査・整備の促進（文化財課）

○ 平成28年度における具体的取組内容

- ・ 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として世界遺産に登録された三重津海軍所跡について、佐賀市教育委員会が行う発掘調査に対して人的、技術的及び財政的な支援を行いました。
- ・ 佐賀市が行っている三重津海軍所跡の整備基本計画策定（保存・整備・活用に関する計画）について助言しました。また、文化庁、内閣官房と調整を行いました。

○ 成果、課題・問題点

- ・ 船屋地区の発掘調査によって、建物跡と考えられる柱列を確認するなど、海軍所に関する新しい知見が得られました。
- ・ 三重津海軍所跡の整備基本計画については、策定委員会が4回開催され、策定に向けた作業が進められました。
- ・ 世界遺産登録効果は登録後数年と言われており、発掘調査による遺跡の内容確認、それに基づく整

備を促進し、公開・活用を早期に進めていく必要があります。

《参考》 課題・問題点に対する平成 29 年度の工夫

- ・ 引き続き、三重津海軍所跡の発掘調査・整備・活用を行う佐賀市を、文化庁、内閣官房と調整しながら支援します。また、具体化してきたガイダンス施設は、遺跡の整備・活用の核となる施設であり、佐賀市の施設整備の取組について積極的に支援します。主なものとしては、「船屋地区・稽古場地区の発掘調査への支援」「整備基本計画・ガイダンス施設基本計画策定への支援」などを行います。

＜取組内容＞ 文化財に対する県民の理解（文化財課）

○ 平成 28 年度における具体的取組内容

- ・ 文化財に対する県民の理解を促進するため、県教育委員会と佐賀大学との共催で、平成 28 年 11 月 20 日に、佐賀大学において県内の近年の発掘調査の成果を紹介する「発掘された佐賀 2016－佐賀県発掘調査成果速報－」を開催しました。この発表会では、佐賀大学教授の基調講演の後、佐賀市、唐津市、伊万里市及び佐賀県が実施した発掘調査の成果を紹介しました。

○ 成果、課題・問題点

- ・ 「発掘された佐賀 2016－佐賀県発掘調査成果速報－」には約 100 名の参加者があり、おおむね好評を得られました。また、小規模ながら会場の一角で出土遺物のミニ展示を行うことも出来ました。ただし、事前の P R などに課題が残りました。
- ・ 本県には、吉野ヶ里遺跡・名護屋城跡・基肄城跡などの史跡の他、有形文化財、民俗文化財、伝統的建造物群など、重要な文化財が多数所在しています。これらの文化財は、地域の誇りと愛着をもたらす精神的拠り所となるとともに、個性豊かな地域の歴史・文化環境を形作る重要な資産であり、その重要性について今後も様々な機会を利用して、県民の理解を深めていく必要があります。

《参考》 課題・問題点に対する平成 29 年度の工夫

- ・ 平成 29 年 7 月 9 日に、発表会「発掘された佐賀 2017－佐賀県発掘調査成果速報－」を予定しており、記者投込みを行うとともに市民講座等で P R を行ったり、博物館・美術館施設等にチラシをおくなど様々な方法で事前の周知を図ります。また、出土遺物の展示を充実させるため、発表会前後の 10 日間、佐賀大学美術館のギャラリーを借り、「発掘された佐賀 2017－佐賀県発掘調査成果展－」を開催します。

有識者会議での意見（外部評価）

- ・ 三重津海軍所跡では、3 D 映像などが更に充実してきており、様々な工夫が感じられる。文化財の維持・保全は、子供たちの郷土愛の醸成にも繋がると思うし、今後とも関係団体と連携しながら更なる取組をお願いしたい。
- ・ 子供たちが余りにも住んでいる地域について良さを知らなすぎている。まずは、自分たちの住んでいる町の文化遺産を知ってもらうことは大事だと思う。もっと子供たちが文化遺産を身近に感じられる取組を考えてほしい。
- ・ 県民に P R する活動を継続して行っていくことと、もっと幅を持った取組、例えば義務教育の生徒に対する取組などを行っていけないか。
- ・ 東名遺跡についても P R が中々できていないと思うので、今後の P R 方法を考える必要があるのではないかな。